

東京4大学連合文化講演会

# 信頼と安心の年金制度

一橋大学教授 高山憲之

一橋記念講堂 2006年10月30日

# 目次

年金の今：解消しない不安・不信

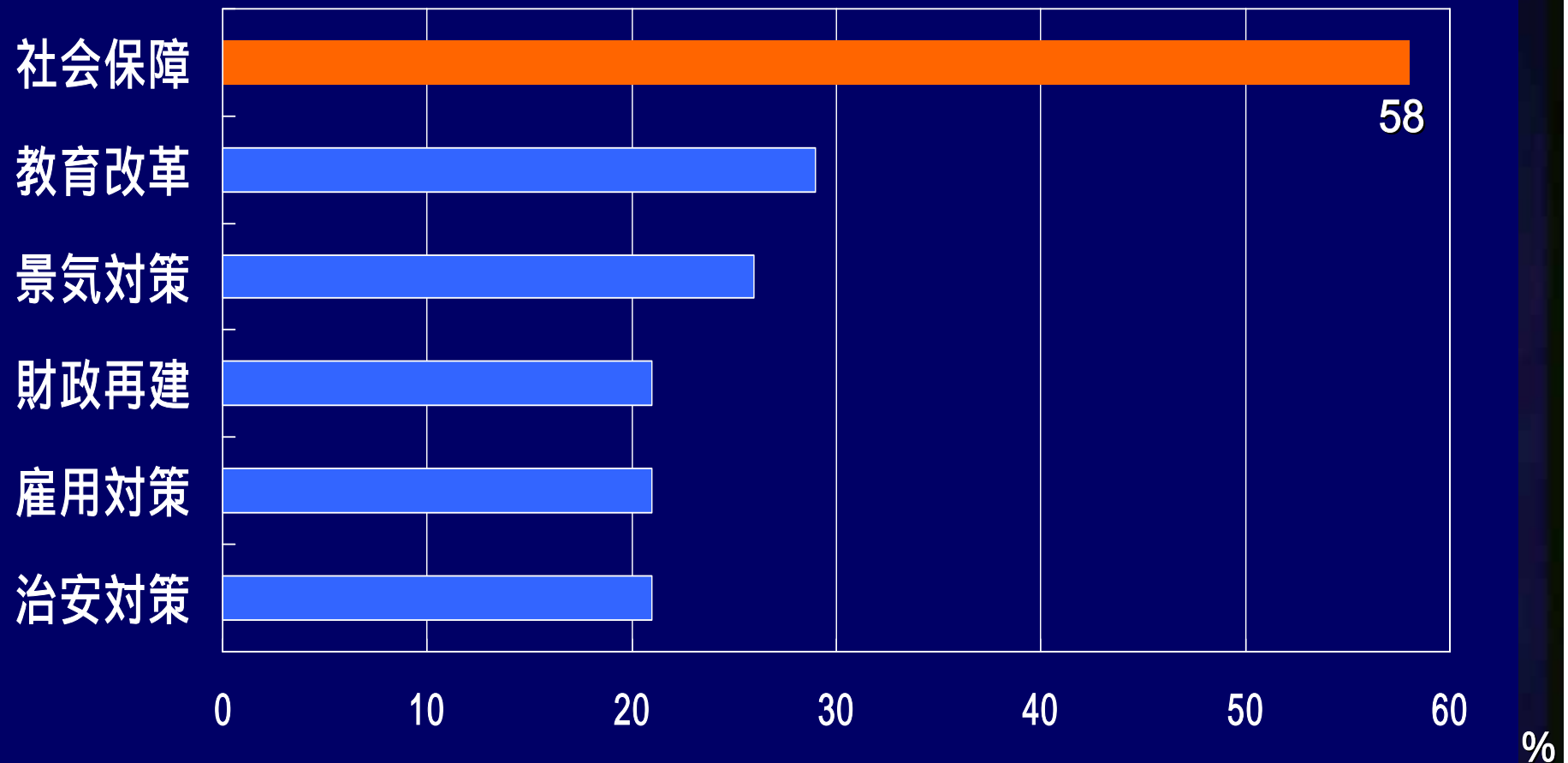
不安と不信の3大原因

信頼と安心の年金制度をどう構築する

世代間対立を世代間協調に

# 年金の今：解消しない不安と不信

## 安倍内閣における優先政策課題



出所：日本経済新聞・世論調査結果（複数回答。2006年9月28日朝刊）

# 不安と不信の3大原因

年金財政に対する将来不安

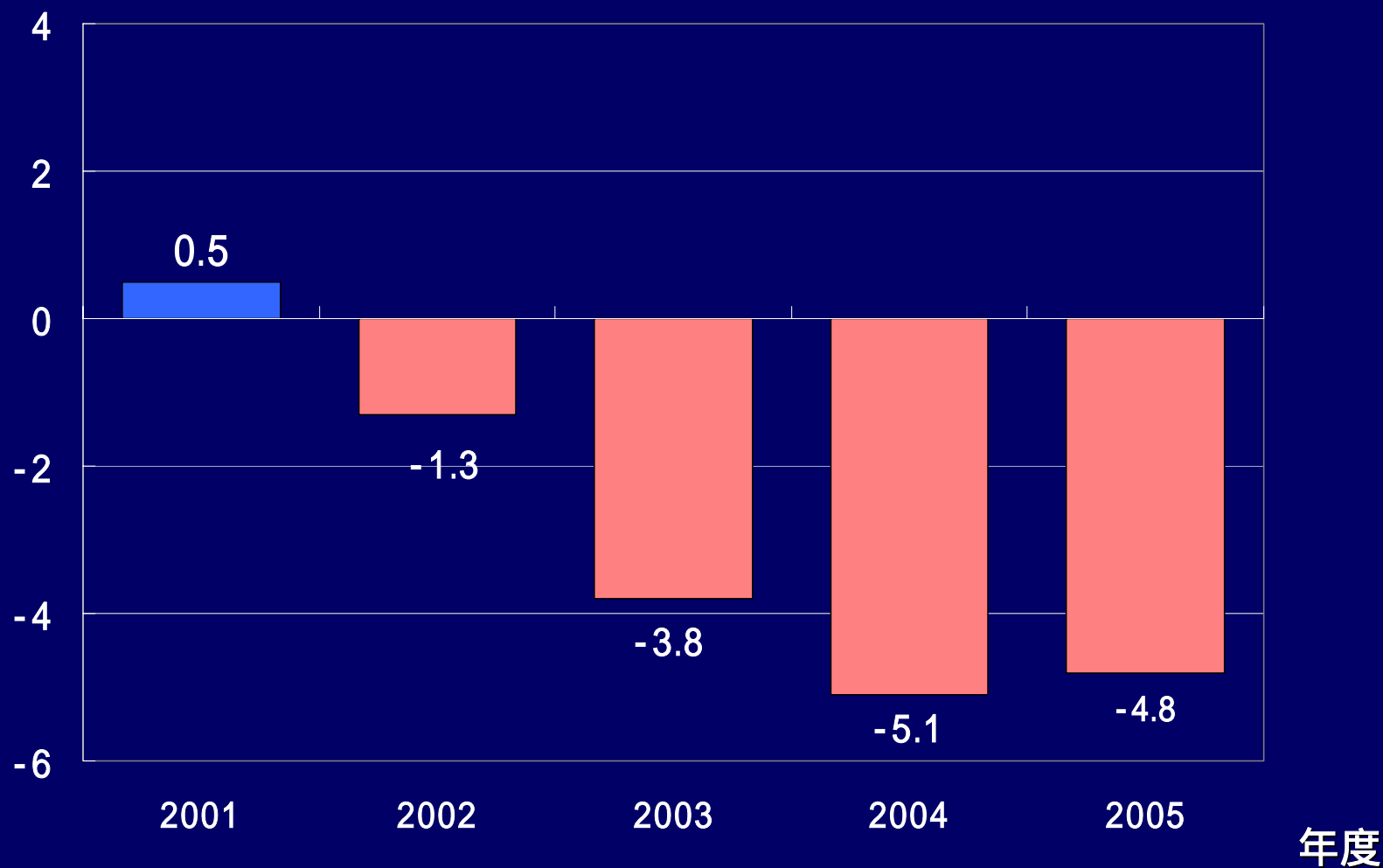
企業と若者の年金ばなれ

政治不信・行政不信

# 年金財政に対する将来不安(1)

厚生年金：年々の収支

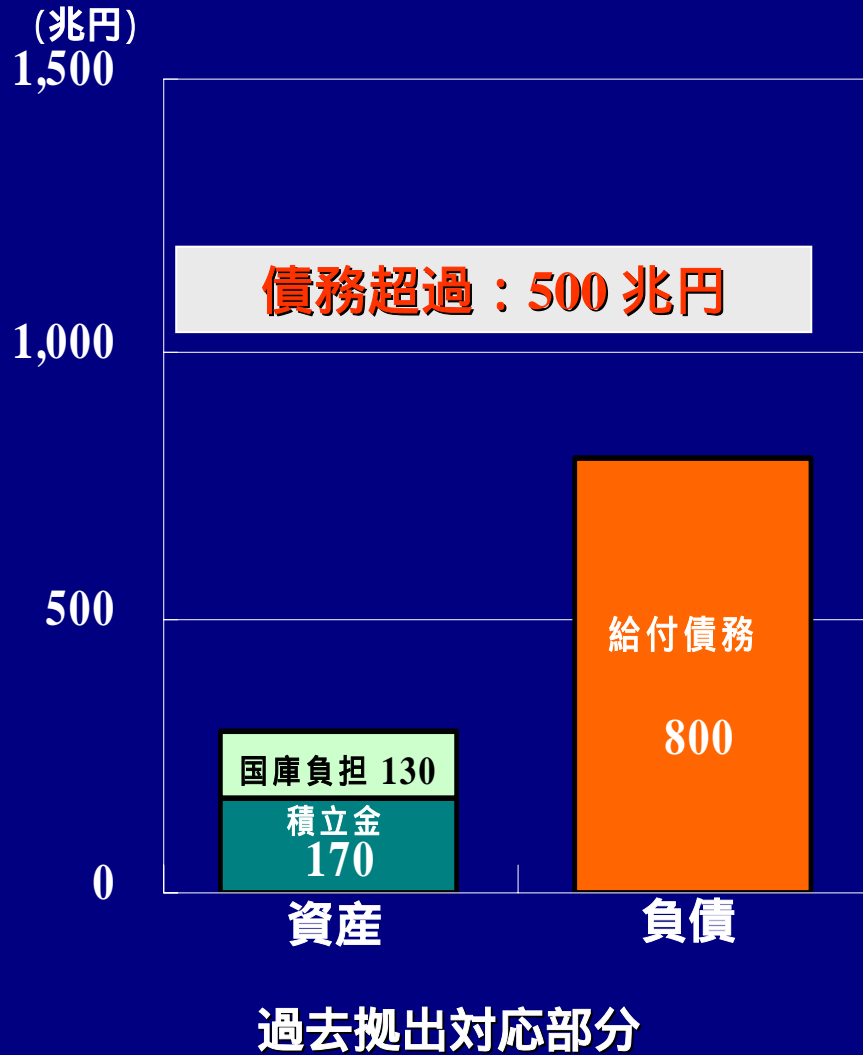
収支差(兆円)



注) 代行返上等移管金および積立金からの受入金を収入から除外してある。

# 年金財政に対する将来不安(2)

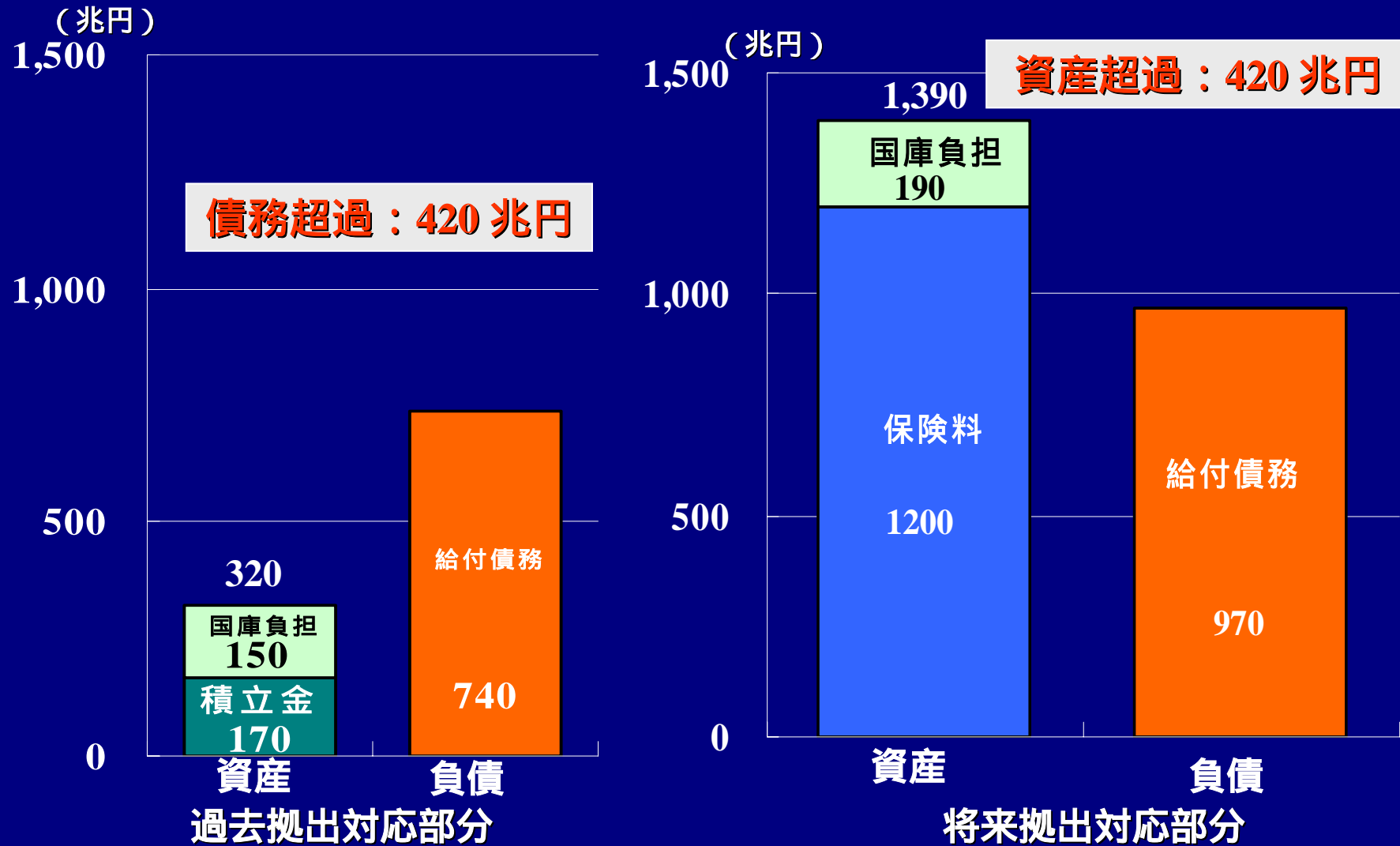
## 厚生年金のバランスシート：2004年改革前



注：2005年3月末時点

# 年金財政に対する将来不安(3)

## 厚生年金のバランスシート：2004年改革後



注：2005年3月末時点

# 年金財政に対する将来不安(4) 願望込みの政府将来見通し

出生率の想定：

1.32 (2002年)      1.31 (2007年)

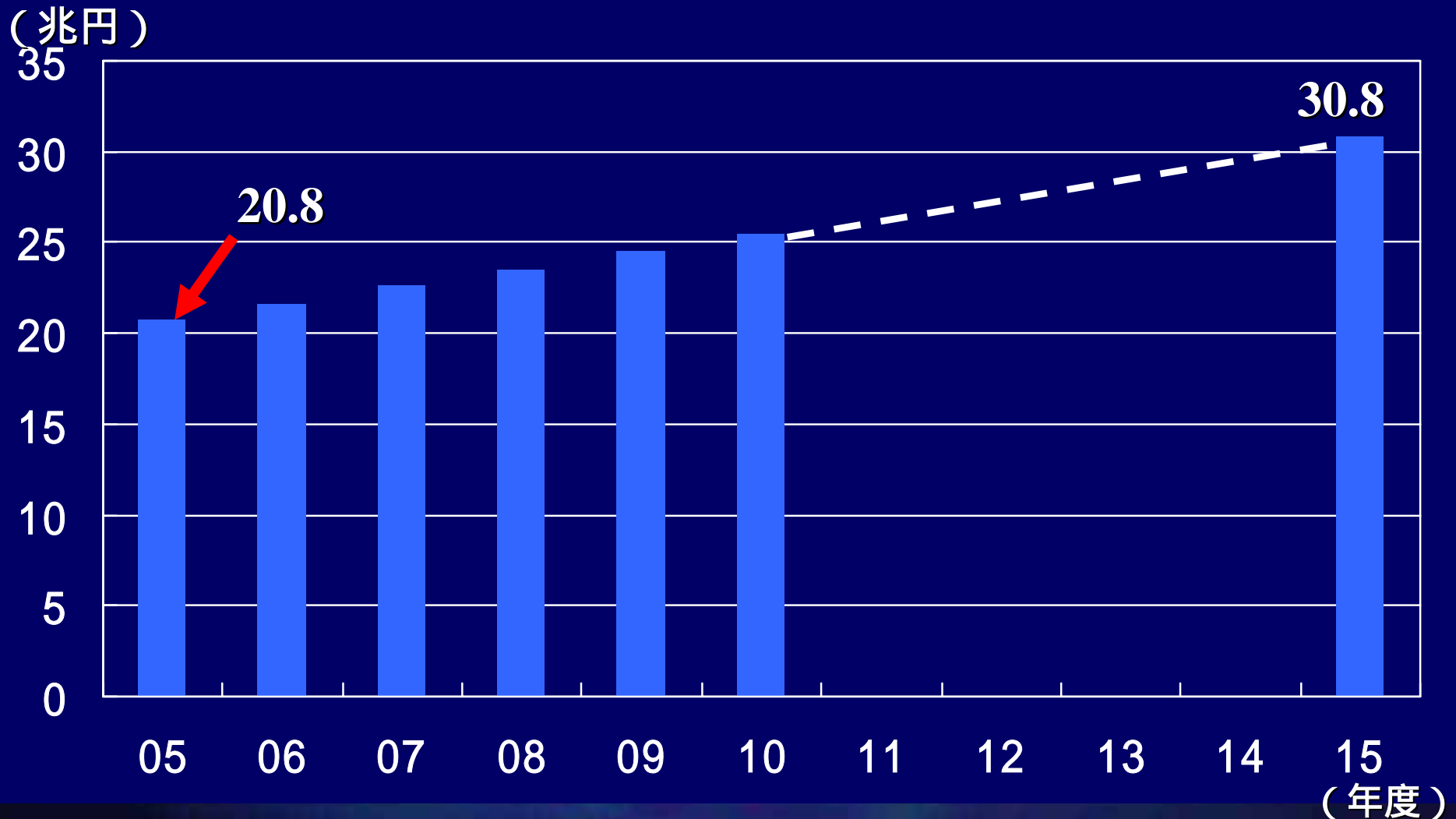
1.39 (2050年)      1.73 (2100年)

cf. 現実：1.29 (2003年)      1.25 (2005年)

保険料増収計画：

厚生年金の保険料収入はこれから毎年1兆円  
ずつ増えていく

# 年金財政に対する将来不安(5) 厚生年金の保険料収入見込み



出所：2004年財政再計算結果

# 企業の年金ばなれ

厚生年金制度の適用漏れ事業所（2004年度）

63～70万事業所

（未適用の割合：28～30％）

未適用の被保険者（2004年度）

267万人

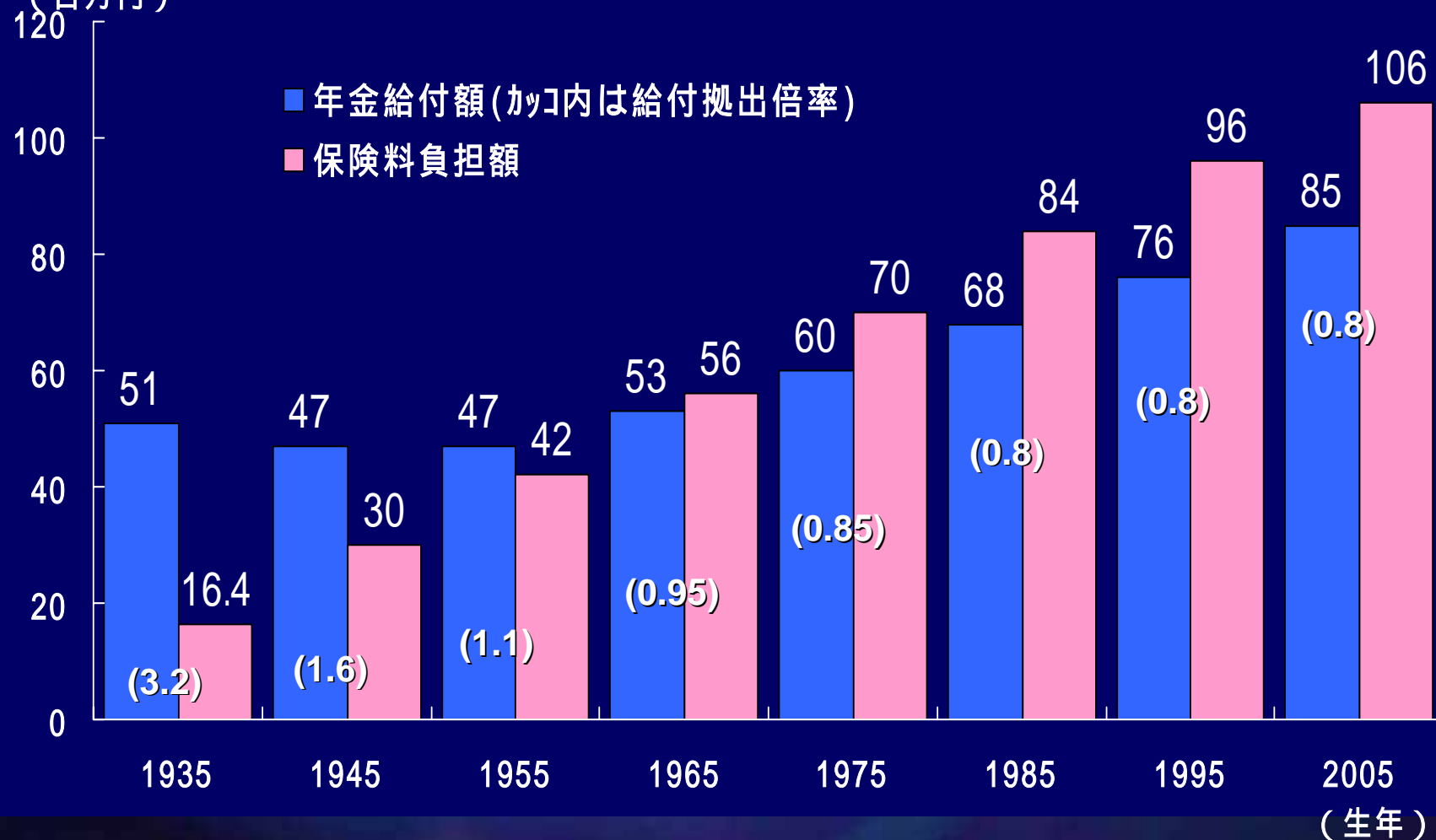
（未適用の割合：7.6％）

出所：総務省行政評価局『厚生年金保険に関する行政評価・監視結果報告書』2006年9月

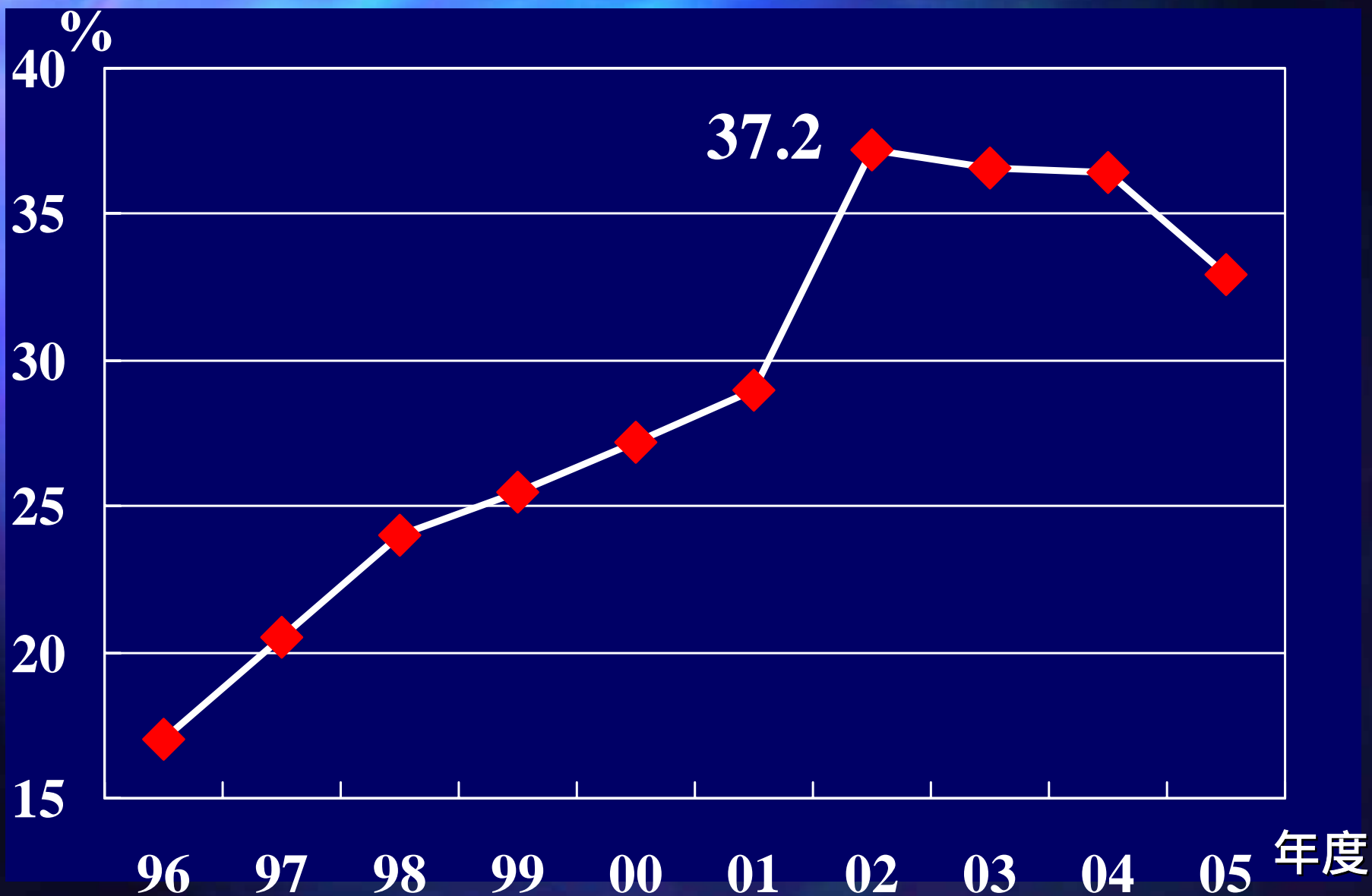
# 若者の年金ばなれ(1)

## 世代別に見た拠出と給付の関係

給付・保険料  
(百万円)



# 国民年金保険料の滞納率



# 政治不信

国会議員の年金未加入・保険料未納

特権つきの議員年金：

まず隗より始めよ

官僚まかせの年金改革

法案の強行採択

# 行政不信

前首相の「人生いろいろ」発言：

勤務実態がないのに厚生年金に加入

説明不足：いわゆる後出しジャンケン

出生率1.29(2003年) / 給付水準50%割れ /  
受給開始年齢のさらなる引き上げ等

不祥事つづきの社会保険庁：

加入記録の不正閲覧 / ゴルフボールの予算計  
上 / 不正免除 / 記録ミスが続出等

# 信頼と安心の年金制度： どう構築する

年金財政に対する将来不安をとりのぞく  
若者の年金ばなれを食いとめる  
政治と行政に信頼を確立する

# 年金財政の安定化

不確実な将来：

十全の予知は不可能である

ポリティカル・リスク：

政治における認知ラグと決定ラグ

自動安定装置の導入

スウェーデン（1999年）

日本・ドイツ（2004年）

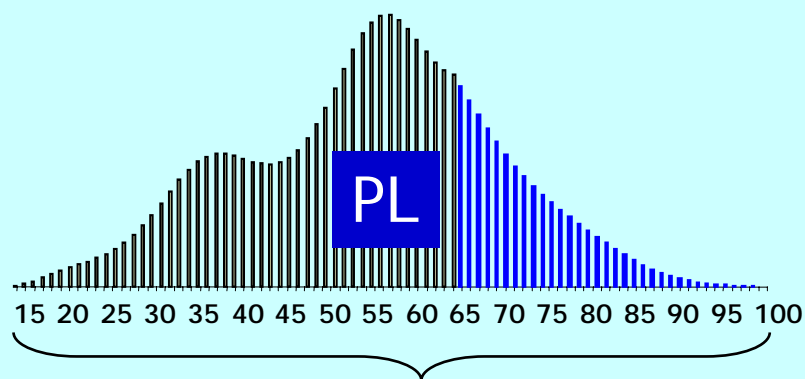
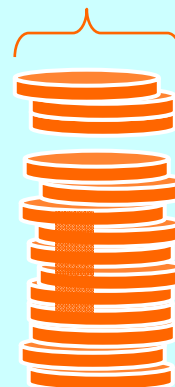
# 自動安定装置(1)：スウェーデン

Balance Ratio

Contribution  
asset

+

Buffer fund



Pension liability

# 自動安定装置(2) : ドイツ

Annual  
Pension  
Increase

Change in earnings,  
net of contributions  
(aggregate, lagged)

Change in system  
dependency ratio  
(sustainability factor)

$$APV_t = APV_{t-1} * \frac{AGE_{t-1} * \frac{1 - CONT1_{t-1} - CONT2_{t-1}}{AGE_{t-2} * \frac{1 - CONT1_{t-2} - CONT2_{t-2}}{}} * \left[ \left( 1 - \frac{SDR_{t-1}}{SDR_{t-2}} \right) * \alpha + 1 \right]$$

where:

*APV* = average pension value

*AGE* = average gross earnings

*CONT1,2* = contribution to first and second pillar

*SDR* = system dependency ratio (number of equivalence pensioners / number of equivalence contributors)

## 自動安定装置(3)：日本

いわゆるマクロ経済スライドの導入

内容：人口要因スライド

減り続ける年金保険料納付者  
さらに伸びる日本人の平均余命

年平均で年率0.9%ずつ実質給付水準を  
下方調整

2023年度までの予定。物価上昇時のみ

# 日本の自動安定装置： 今後の課題

期間限定となっている：

2023年以降、どうする

経済要因の変化を考慮していない

cf. スウェーデンの自動安定装置

# 自動安定装置のみでは十分でない

財政は確かに安定する

その代わり給付水準は不安定化

「品位を保つ」のに必要な給付を

上乘せ給付としての保証年金

保証年金の財源は保険料ではなく税金で

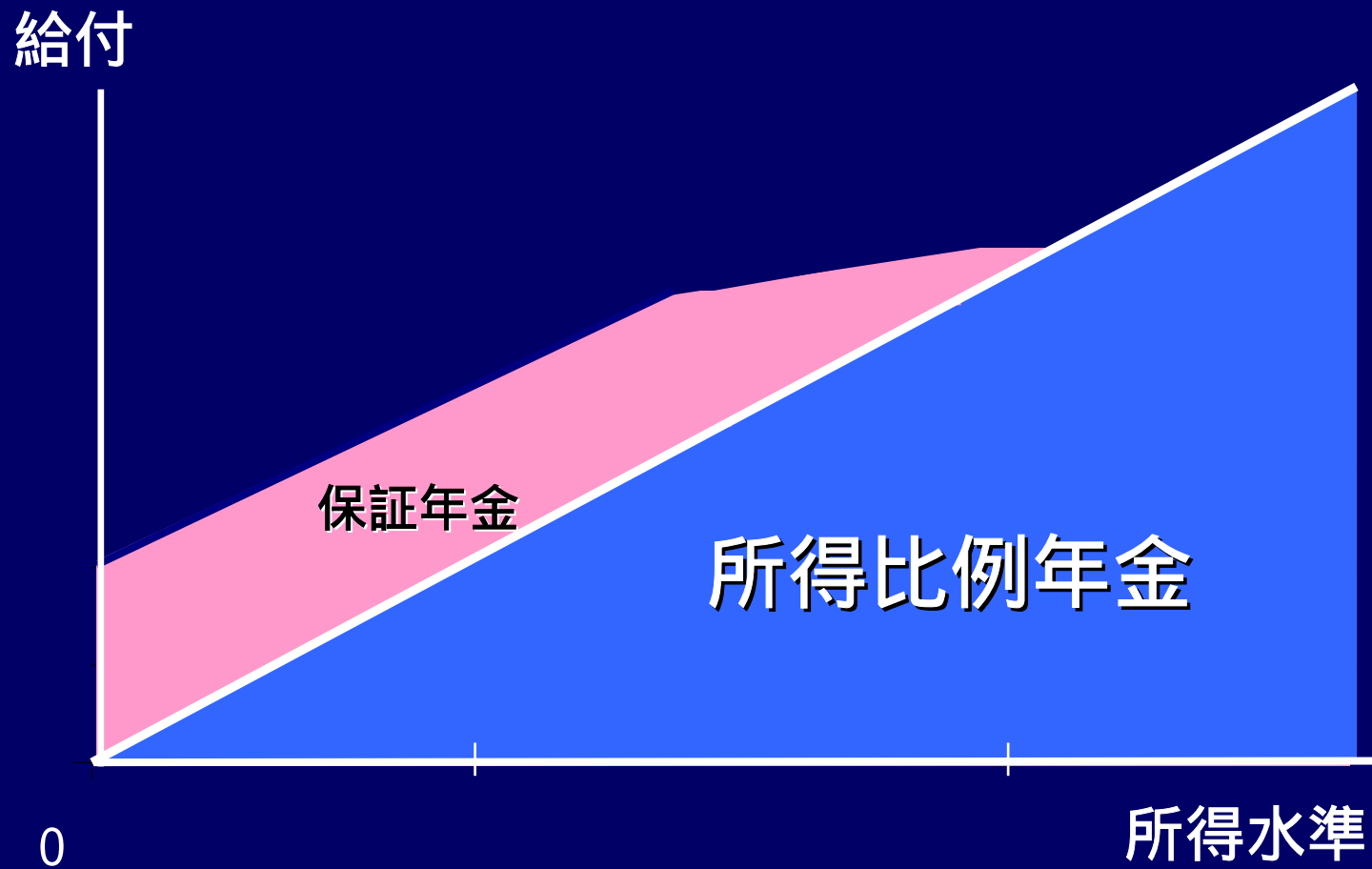
過剰給付の抑制

10%カット：事実上のルール化

日本的契約観念・慣行(「過去は水に流す」)

働き手をふやす

# 年金給付：新体系（案）



# 若者の年金ばなれを食いとめる

若者の年金不信は世界に共通している

「みなし掛金建て」制度への切りかえ

スウェーデン、イタリア、ポーランド  
ラトビア、キルギス等

拠出と給付は1対1に対応

受給開始年齢：

決めるのは政府でなく加入者本人

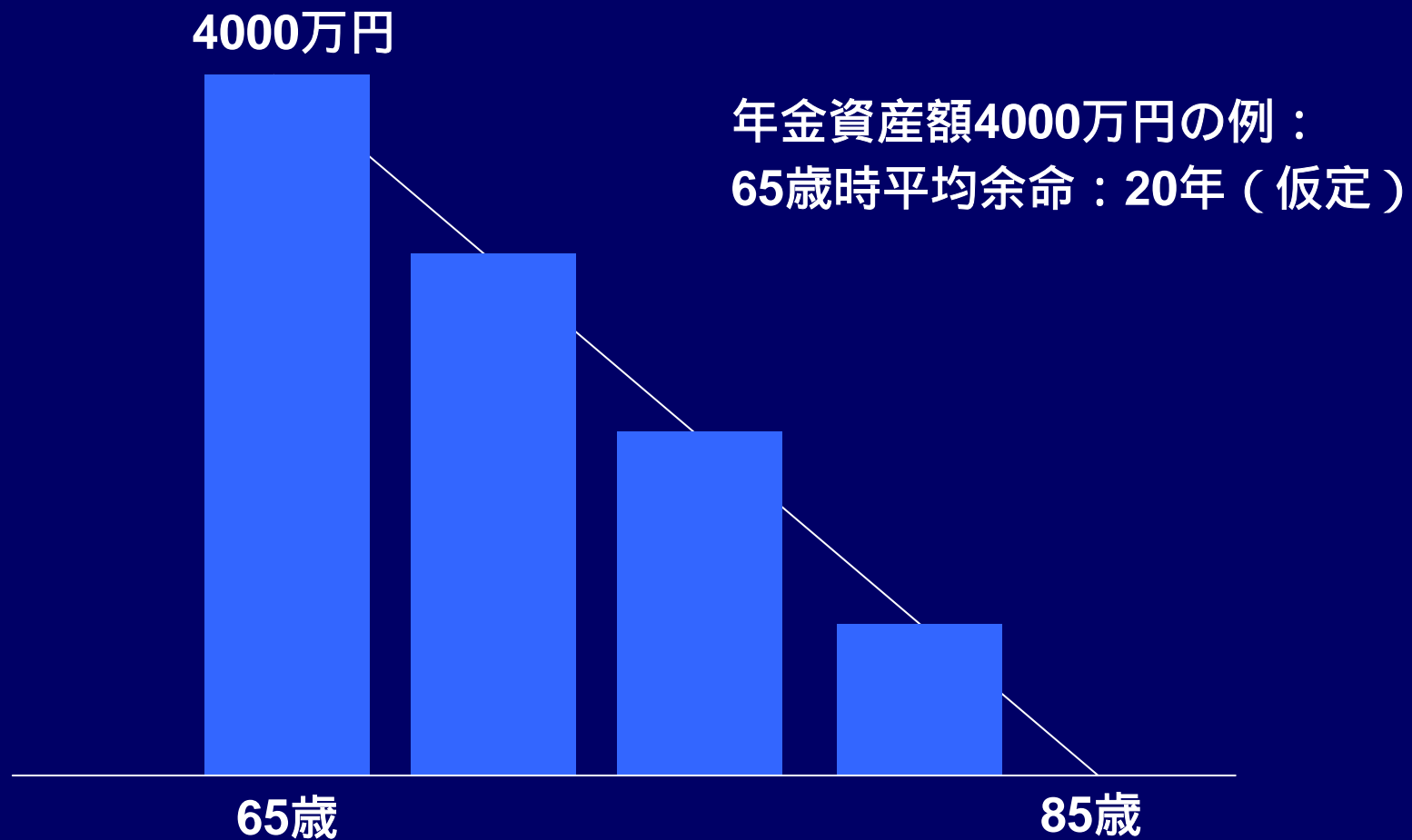
# みなし掛金建ての年金（１）

## 年金個人勘定の記録（年金資産額）



# みなし掛金建ての年金（2）

## 65歳時の年金給付額算定



# 政治と行政への信頼

## リスクはゼロにはできない

リスクを最小限にとどめる

リスク発生時の柔軟かつ適切な対応

## 理解と納得

徹底した情報公開と説明責任

透明かつ公正な決定プロセス

公平かつ効率的な制度執行

責任の所在（責任者）を明確化

# 年金の将来：対立から協調へ

## 2つの願い

年老いた親には品位の保てる生活を  
現役の子供には勤労に見あった分け前を

公的年金制度とは：1つの財布を親子で  
分けあうルールを定めるもの

## 日本人への期待と可能性

世界のフロントランナー：求められる模範

パイのサイズを大きくする

“三方一両損”の知恵

世代論よりも親子間の相互理解を

# 主な結論

人間の予知能力に限界

自動安定装置

モチベーション / インセンティブ

説明責任